

腰部脊柱管狭窄症

腰部脊柱管狭窄症とは中、高年で起きる腰の病気のひとつで、特に70才以降で多くみられます。加齢や仕事の負担、普段の姿勢などの影響で年々背骨が変形したり、ずれたりねじれが生じる事により脊柱管（脊柱管とは背骨の中の脊髄が通る管です。）が狭くなり、中の神経が圧迫され下肢のしびれや筋力低下、歩行障害が生じる病気です。運動不足や喫煙、高血圧、糖尿病も危険因子です。特徴的な症状に歩くと足がしびれて歩行できなくなり、腰を前かがみにして休息すると改善して歩行できるという間欠性跛行（かんけつせいはいこう）があります。治療にはまず薬物治療やリハビリテーションが行われますが、歩行障害が進行し、日常生活に大きく影響するようならば手術治療が行われます。狭くなった脊柱管を広げます。また広くした脊柱管に金属の棒やねじで背骨を固定することもあります。腰部脊柱管狭窄症で困っている方は近くの整形外科を受診してください。

令和5年6月

和田 孝彦